



草創



学校教育目標

- 自ら考える生徒（創造）
- 思いやる生徒（誠実）
- 行動する生徒（自主）
- きたえる生徒（健康）

北広島市立西部中学校 学校だより

臨時号

令和4年10月31日発行

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査（第3学年実施）につきまして、10月11日に個人表を配付いたしました。併せまして、本校の状況に関しまして分析がまとまりましたのでお知らせします。この調査結果を踏まえ、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでいきます。

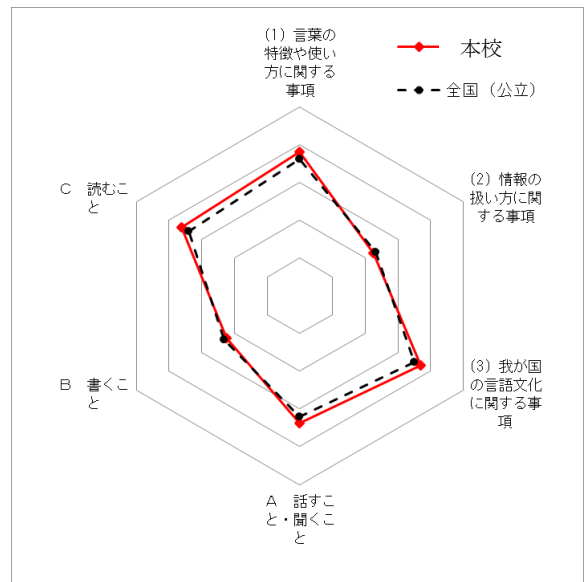
国語 全国の平均正答率より「やや高い」結果でした。

<領域別>

- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語文化」「国語の特徴・使い方」の領域は、全国平均と比べて、やや高い結果でした。
- 「書くこと」「情報の使い方」の領域は、全国平均と「同等」の結果となりました。

<問題別>

- 文脈に即して漢字を正しく書いたり、助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使用する問題はよくできていました。基礎基本を重視した日頃の授業や家庭での反復学習の成果と考えられます。
- 一方で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題に課題が見られました。自分の考えを文章で書く習慣づけが必要と捉えています。



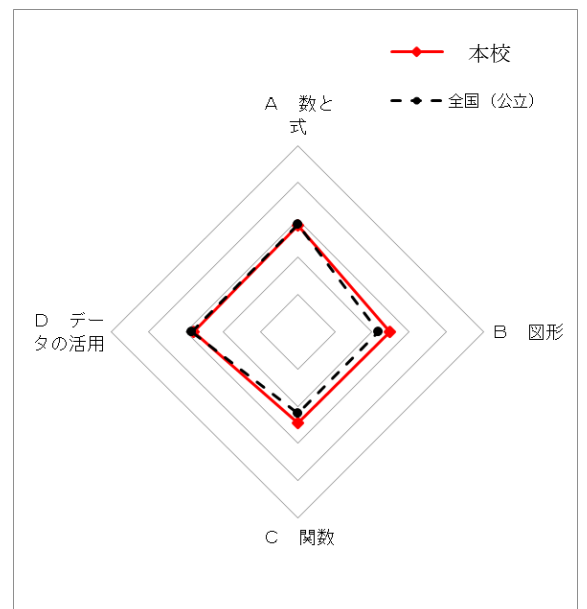
数学 全国の平均正答率と「同等」の結果でした。

<領域別>

- 「図形」「関数」の2領域で、全国平均と比べて、やや高い結果となりました。
- 「数と式」「データの活用」の領域で、全国平均と「同等」の結果となりました。

<問題別>

- 全国と比べ、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に取り出したり、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解する問題がよくできていました。TTによる指導や個別学習や放課後学習などで基礎基本の徹底が図られていることも要因と考えられます。
- 一方で、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題などに課題が見られました。



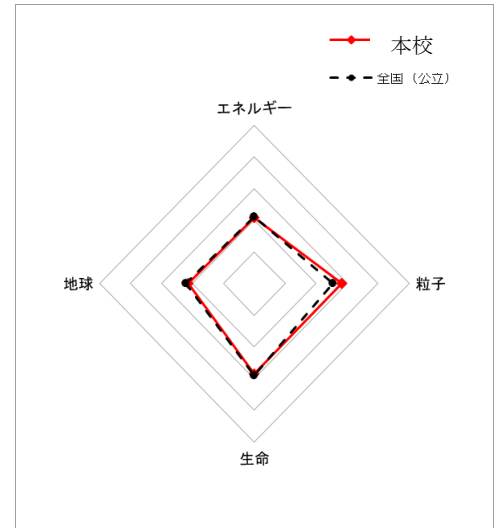
理科 全国の平均正答率と「同等」の結果でした。

<領域別>

- 「粒子」の領域で、全国平均と比べて、やや高い結果となりました。
- 「エネルギー」「生命」「地球」の領域で、全国平均と「同等」の結果となりました。

<問題別>

- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す問題がよくできていました。
- 一方で、地層の傾きを分析して解釈する問題や未知の節足動物をアリと比較しながら共通点と相違点を捉え、分析して解釈する問題に課題が見られました。



生徒質問紙から

質問紙は、基本的に「1, 当てはまる」「2, どちらかといえば当てはまる」「3, あまり当てはまらない」「4, 当てはまらない」を選択して回答します。

【基本的生活習慣に関して】

- 「朝食」「就寝」「起床」についての項目で、本校生徒は1、または2と回答した生徒が9割以上おり、規則正しい生活を送ることができていることがわかります。
- 「普段の日の学校の授業時間以外の学習時間」では、1時間未満と答える生徒の割合が、年々多くなっており、家庭学習の習慣化が大きな課題となっています。

【自己有用感に関して】

- 「自分には良いところがある」において、1または2と答えた生徒の割合が9割を超えています。
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」においては1を選択した生徒が全国平均よりも25%も高く、1または2と答えた生徒は8割を超えています。
- 「学校に行くのは楽しいか」において、1または2と答えた生徒の割合が約9割います。
- 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか」では、昨年度よりもさらに後退しており、新型コロナ等の影響で行事や部活動等で力を発揮仕切れていないことも要因と捉えています。

【地域や人との関わりについて】

- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」は今年も全国平均を大きく上回っていますが、4と答えた生徒が1割ほどおり、総合的な学習の時間等の内容を再考していく必要があります。

調査結果を踏まえた今後の学校での主な取組

- 国語において、「書くこと」の学習を深めていくために、国語の授業内で書く学習場面を増やすだけでなく、教科横断的にすべての教育活動の中で、自分の考えをまとめ、書く場面を設定していくように努めます。
- 日々の授業の中で、一人一台の端末（ICT 端末）を活用し、主体的に学習に取り組めるように進め、様々な方法で対話的な学びを充実させ、深い学びにまで到達できるように授業改善を行います。また、これまで行ってきたTTによる指導や習熟度別少人数指導、放課後学習、長期休業中等による補充学習を今後も充実させていきます。
- 家庭学習の仕方等について授業の中で伝え、時折課題を提示し、家庭での学習の習慣化を図ります。
- 西部中学校のコミュニティ・スクール運営委員会の取組等により、生徒のコミュニケーション能力を高め、人間関係作りや地域社会の一員としての自覚の形成に役立てます。
- 学校生活のあらゆる場面において、生徒が生き生きと活動し、仲間や教師に認められ、今後も自己有用感が高まるように、全教職員で「E 笑顔」「K 健康」「K 活気」を意識して教育活動にあたります。